

ごみの減量・再資源化に関する市民説明会 概要
【神川地区公民館】

1 開催概要

開催日時	令和 8 年 7 月 30 日(木) 19:00～20:15	
開催場所	神川地区公民館 大ホール	
出席者	市民	27名
	行政(市職員)	資源循環型施設建設推進参事、 ごみ減量企画室職員2名、廃棄物対策課職員 2 名

2 主な質疑応答

No	項目	質問・意見等	回答
1	焼却施設	(1)既存のクリーンセンターは270トンの処理能力とのことだが、かなり余裕があるのか。 (2)火災や故障時に対応できるよう、民間施設とごみ処理に関する協定を結ぶという話しも聞かすが、余裕があれば必要ないのではないのか。	(1)上田クリーンセンターには炉が2つあるが、現在は片方ずつ運転している状況で処理能力以下の処理量となっている。 (2)緊急ごみの受入れについては、各市町村で民間業者と協定を結んでおり大きな地震等があった場合には、クリーンセンターだけでは災害廃棄物の処分等に対応できない場合も考えられるため緊急対応に備えて取り組んでいる。
2	ごみ減量の目標値	ごみが減量しているのはコロナ禍による事業系ごみの減少と思うが、令和12年度のごみ減量目標値を見ると、目標達成までに2千トン以上減らす必要がある。大変厳しい状況ではないのか。	事業系ごみは横ばいの状況であり減量しておらず、一般家庭からのごみがかかなり減っている。事業系ごみの減量対策も重要と考えており、更なる減量に向けて取り組んでいきたい。
3	最終処分場	最終処分の経費に1億5千万もかかっているのであれば、早急に最終処分場の整備が必要ではないのか。	広域連合では、焼却施設を作る市町村以外で最終処分場を作ることとしており、焼却施設の建設地決定まで白紙であった。現在は、上田市以外の東御市、長和町、青木村のどこかに造ることで検討を進めている状況である。

4	ごみ排出量	市民が1日に出すごみ量、348グラムは少なすぎるのではないかな。	燃やせるごみは、一般家庭から排出される家庭系と事業所等から排出される事業系の2種類あり、その合計で算出すると700グラム程度になるが、今回資料でお示している可燃ごみ排出量は家庭から出るごみ量から算出している。
5	やさいまる	(1)やさいまるを利用しているが、その都度申請書へ記入しなければならないので簡素化等できないかな。 (2)やさいまるは年間どのくらい集まって、集めたやさいまるはどうなっているのか。	(1)申請書等は根拠資料となるものなのでご理解いただきたいが、簡素化に向けてデジタル化の研究も行っている。 (2)やさいまるは令和7年度実績で3,060kg 集まっており、市内の民間生ごみ堆肥化施設で堆肥化している。
6	家庭用廃食用油	ぱっくんをやっている、少量の油はぱっくんで処理するが、大量の場合はどのように処理したらよいか。	家庭用廃食用油の回収ができるよう現在研究中であるが、市内では綿半スーパーセンター上田店様で回収を行っている。また、丸子地域自治センター市民サービス課でも試験的に回収事業を行っているのでご利用いただきたい。
7	ごみの減量	長野県19市のうち上田市が7位と説明があったが、上位の自治体の取組を研究し取り組むべきではないかな。	ごみの排出量が少ない市は生ごみの分別収集などを行っていることが理由のひとつとして考えている。市民の皆様のご理解・ご協力により生ごみの自己処理も進んでいるため減少傾向にあり、引き続きの取組にご協力いただきたい。

8	広報誌の配付	役員をしているが広報誌等の配り物が大変であり、メールや LINE 等による情報提供で紙ごみや印刷費も減るのではないか。	市民説明会で行っているアンケート結果を見ても、広報誌を見て参加された方は多く、情報をお伝えするために紙ベースの情報は必要な手段と考えている。読み終わったあと可燃ごみでなく資源物として分別してもらえば資源として戻ってくるため、市からの配付物が多く大変かと思うがご理解いただきたい。
9	有機物リサイクル施設	有機物リサイクル施設は作らなくなったということで、ごみ減量化機器補助制度を充実させてもらえば生ごみも減ると思うが、今後の予定はどうか。	有機物リサイクル施設整備事業は白紙になったわけではなく、現在事業精査をしているところなのでご理解いただきたい。ごみ減量化機器購入費補助制度は毎年予算確保させていただいており、今後も同額程度の予算を確保できるよう努めてまいりたい。